

核兵器のない世界を目指してⅡ（核兵器廃絶と教育）

（１）科目の紹介

基本情報	平成 25 年度・教養教育・前期	曜日・校時	金 4 限
モジュール名	核兵器のない世界を目指して	科目名	核兵器廃絶と教育
教員名（所属）	全 炳徳, 高瀬 毅, 桐谷 多恵子, 山口 剛史（教育学部）		教室 A-12
選択者数	29 名	2 年生の所属学部	教育学部 経済学部 薬学部
再履修数	4 名		(21 名) (7 名) (1 名)
<p>授業のねらい：</p> <p>核兵器廃絶に向けての取り組みや歴史的な背景等について、次世代の人たちにどう伝えるべきであるかについて考察する。特に、初等・中等教育における核兵器および被ばく体験等の戦争被害の扱われ方の実際とその問題点、あるべき姿について「平和教育の観点」から考える。</p>			
<p>アクティブラーニングに向けて工夫した点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎・広島原爆（桐谷先生）、平和教育（山口先生）、言論分析（高瀬先生）の専門家の講義を用意 ・専門家たちが伝えた講義内容をもとに、受講者は討論の時間を持つ ・受講者は4班に分けられ、小学校、中学校の生徒たちを想定した「模擬授業案」を作成後、模擬授業 ・模擬授業で優秀な授業案を、市内の小学校にて小学生や教員を対象に実践授業を実施 			

（２）学修の評価

到達目標	平和教育の題材として広島、長崎、沖縄を取り上げ、それぞれの専門家から地域的な特性について学ぶ。学んだものを自分たちのものとして作り上げるためにディスカッションを経て、平和教育教材を作成する。作成した教材は学校現場で実践を持って平和教育を体験する。
成績評価の方法	<p>本講義は</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回レポートの評価点 2. 平和教育教材開発と発表の内容評価点 3. 平和教育実践授業の評価点 4. 最終レポートの評価点 <p>を合計して評価する。</p>

（３）授業の進行

概要：	
回	<p>学習内容</p> <p>授業方法（講義、グループワーク、プレゼンなど）</p>

1	オリエンテーション	授業の内容や目標について説明 グループ分け作業等
2	核兵器廃絶と教育（広島・長崎の視点から、講義）：桐谷、全	長崎の原爆、その事実について学ぶ 感想や質問等はレポートとして提出
3	核兵器廃絶と教育（広島・長崎の視点から、討論会）：桐谷、全	広島の前爆、その事実について学ぶ 感想や質問等はレポートとして提出 前回、レポートに回答
4	核兵器廃絶と教育（沖縄の視点から、講義）： 山口、全	沖縄の平和教育について学ぶ（1） 感想や質問等はレポートとして提出
5	核兵器廃絶と教育（沖縄の視点から、討論会）： 山口、全	沖縄の平和教育について学ぶ（2） 感想や質問等はレポートとして提出 前回、レポートに回答
6	核兵器廃絶と教育（言論・報道関係者の視点から、講義）：高瀬、全	長崎の原爆ドームについて学ぶ（1） 感想や質問等はレポートとして提出
7	核兵器廃絶と教育（言論・報道関係者の視点から、討論会）：高瀬、全	長崎の原爆ドームについて学ぶ（2） 感想や質問等はレポートとして提出 前回、レポートに回答
8	核兵器廃絶と教育（グループスタディ）：全	平和教育のモデル授業実施（1） ・教員による
9	核兵器廃絶と教育（グループスタディ）：全	平和教育のモデル授業実施（2） ・卒論を準備する学生による
10	核兵器廃絶と教育（教材開発と発表：広島・長崎編）：全	核兵器廃絶・授業づくり（予備） ・グループ活動
11	核兵器廃絶と教育（教材開発と発表：沖縄編）： 全	核兵器廃絶・模擬授業 ・4グループ（20分ずつ）発表
12	核兵器廃絶と教育（教材開発と発表：言論・報道編）：全	平和教育・授業づくり（予備） ・グループ活動
	核兵器廃絶と教育（平和教育実践1、長崎市内	平和教育・模擬授業

13	小中学校) : 全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4グループ (20分ずつ) 発表 ・ 山口先生、出席コメント
14	核兵器廃絶と教育 (平和教育実践2、長崎市内小中学校) : 全	模擬授業案づくり (本番) <ul style="list-style-type: none"> ・ 2グループ活動 ・ 2つの模擬授業完成
15	核兵器廃絶と教育 (平和教育実践3、長崎市内小中学校) : 全	2グループの最終発表 <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価等をレポートとして提出
16	8月9日、原爆の日、9時30分～11時まで (核兵器廃絶班の市内小学校での授業実践)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 代表者 (授業実践の希望者) ・ 市内の小学校にて授業実践

(4) 授業の成果

全体の総括	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原爆や平和教育、原爆関連の言論報道について専門家の講義を受けた。 ・ 受講者は専門家の知識をもとに討論の時間を持った ・ 受講者は討論した内容や知識を、次世代の人々にどう伝えるか考えた。
今後の改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家との討論の時間が少なかったと思う。 ・ 模擬授業の反省の時間が少なく、改善があまり見られなかった。 ・ 模擬授業の作成の数を半分に減らし、議論の時間を増やすべき。

(5) アクティブ・ラーニングの充実に向けた提案

ポイント提案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの授業づくりに挑戦 ・ 授業の ICT 活用をお勧め
参考になる資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践授業に用いた指導案

(別添資料) : 実践授業に用いた指導案